

## 第二話

### 母子沢の夜泣き石



むかし、多賀城に城を造るときに、人柱が欲しいっていうことで、だれを人柱に立てようかということになって、みんなまで評議したんだと。

そして、評議の結果、着ている衣服が破れた人、袴はかまの破れた人を人柱に立てようということになったんだと。

そして、一人一人、調べていったら、ある人が破れたのを着ていて、その人に決まったんだと。着物が破れてだったっていうんだね。

その人には、女房と娘があったんだとね。可哀そうだったが、決まったことなので、その人を人柱に、差し出したんだとね、むごいことよな。

それを悲しんだ女房と娘が、夜になると、家の外さ出はって、お父とつつあんが連れていかれた方を見て、泣いていたんだと。毎晩、毎晩、泣いているうちに、二人は石になってしまったんだと。

その石が、夜になると、しくしく、しくしくと泣くんだと、いまもね。